



【2024年8月 Digital Textile Conference 開催記録】

2024年8月27日(火)、新宿の文化学園大学にて、「デジタルテキスタイルの未来」をテーマに、コンファレンスを開催した。今回は、初の試みとして、隣のホールにてサンプル展示及びコーヒープレイクを行った。関係者を含め79名にて、ディスカッションや名刺交換を行い、盛況のうちに、無事終えることができた。

以下、各講演の流れに沿って概要を報告する。



講演会場：文化学園大学 20 階 A ホール(A201)

●第一講「特許から見るデジタルテキスタイルの未来の展望」

講師：インクリサーチ代表

ここ5年間のインクジェットテキスタイル関連の公開/登録特許を調査した結果、重複分を除くと、件数は、41社より419件であった。エプソンが全体の3割以上を占め、存在感が大きい。2位の日本化薬の約4倍であった。また、分野別では、全体の4割が顔料インク関連で、エプソン、理想科学、リコー、京セラ、コニカミノルタの出願が多くなっており、中でも前処理剤との組み合わせが一番多い。その他の用途では、皮革への染色が増えてきたが、DTFはあまり件数が伸びていない。また、新技術としては、着色樹脂粒子による染色が目立つが、実用化にはまだ時間がかかると思われる。



●第二講 サンプル出展社紹介①

「デジタルテキスタイルにおける Adobe Illustrator を使った柄と型紙の融合」

講師: (株)ベビーユニバース iPM 担当 猪瀬由実子

同社は Adobe イラストレーターのプラグインソフトと、それを自動で動かす自動化 AI を開発している。今回は洋服のパターンメイキング(型紙製図)をするプラグインソフト、iPM (<https://ipm-modelist.com/>) の紹介にて、ソフト開発メンバーの一人である 玉置浩一氏の型紙にイラストレーターの生成 AI で作成したテキスタイル図案を配置し、反応染料でインクジェットプリントした、かりゆしシャツ 3 枚とメイキングビデオを出展した。



ベビーユニバース社の展示

「ColorLoop」について

講師: 京都工芸繊維大学名誉教授 木村照夫

ColorLoop 社は、繊維の素材分別が難しい廃棄繊維を色で分けて分別し、色素として利用することに取り組むベンチャー企業である。着色物は、ブックカバーや建材、



繊維に練りこんだ糸など多岐に渡っている。



ColorLoop 社展示

●第三講 「2050年の未来社会におけるサーキュラーエコノミー」

講師:ハーチ(株) 代表取締役 加藤佑

ハーチ社は、サーキュラーエコノミーの普及に向けて、機関紙発行や、自治体とのコラボ事業を展開するベンチャー企業である。加藤代表によれば、繊維業界にもサーキュラーエコノミーの導入が急務であり、すでに様々な取り組みが始動している。例として沖縄のさとうきびの廃材を利用したかりゆしウェアや、スウェーデンの繊維の素材・色を自動判別する Siptex 社などが紹介された。

●第四講 [クリエイティブのための生成 AI「Adobe Firefly」とテキスタイルデザインへの応用]

講師: アドビ(株)

Creative Cloud セグメントマーケティング部マーケティングマネージャー 岩本崇

プリント&パブリッシング事業部 シニア OEM プロジェクトマネージャー 加藤統久

Adobe は生成 AI、Adobe Firefly の提供を開始して1年が経った。著作権を侵害



しない画像で学習したモデルであり安心して利用できる。学習に利用する画像の提供者には利益還元する等、クリエイターの味方になることを重視している。一方、プリンターの画像データ処理に欠かせない RIP は現在も、PDF を直接処理するなど進化し続けている。今後も商用印刷をサポートする豊富な機能を提供していく。

●第五講 サンプル展示社紹介②

「最新デジタルテキスタイル技術で実現する次世代への架け橋」

講師：(株)ミマキエンジニアリング グローバルマーケティング部インサイドセールス G 吉田智香

同社の捺染顔料転写システム「TRAPIS (トラピス)」では、様々な素材にプリントを行うことができる。制作した繊維・縫製関連アイテム・グッズ等が紹介された。伸縮性のある水着にもしっかりと定着していた。



ミマキエンジニアリング社のサンプル展示の様子

「リユースファッション — 古着の世界 —」

講師：MASATO YAMAGUCHI DESIGN OFFICE 山口大人
循環型社会への変革のニーズにともない、リサイクル市場が注目されている。山口



氏が扱うプリントを用いたヴィンテージ古着とブランド古着が紹介された。また、模倣品と本物の比較展示に注目が集まった。



MASATO YAMAGUCHI DESIGN OFFICE 社 展示の様子

●第六講 「繊維のサーキュラーエコノミー」

講師: 京都工芸繊維大学名誉教授 木村照夫

従来は経済重視で環境に良いものが出来ても高く売れない時代が続いていたが、近年は環境重視で、世の中に認知され始めてきている。2000年に「循環型社会形成推進基本法」が制定され、各種リサイクル法などが制定されたが、繊維製品リサイクル法はまだ制定されていない。木村教授は長年、繊維 to 繊維として、リサイクル混紡繊維(複数素材)の研究を行ってきた。かつては事業採算性の点で、で商業化されていなかった技術がここにきて着目されており、複数のプロジェクトが動き出している。

●第七講 「EXPO2025 とデジタルファッション」

講師: デジタルファッション株式会社 代表取締役社長 森田修史

森田氏は、EXPO 2025 においてデジタルファッションの役割を担われており、万博



のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」に沿ったデジタルファッションの展示やワークショップを企画し、来場者に未来のファッションの可能性を体験してもらう活動を行っている。SOROYURU をプリントした衣装を作成し、各国との打ち合わせに参加され一つのコミュニケーションツールとして活用している。



サンプル展示会場: 文化学園大学 20 階スペース21 (C201) からの眺望

FIN